



BODOME
Diamond
Room

相談窓口と居場所を兼ね備えた
にんしんSOS 大阪市
ボ・ドーム ダイヤモンドルーム

ボドーム・ダイヤモンドルーム お便り



令和5年2月発行



Withの姿勢

「妊娠、出産というのは、人が変わる大事なチャンスなにかと。やっぱり一人の不安感ですよ。その時に誰かに寄り添ってもらえるってことは、心が動く時期なにかと。」

「何でも言ってね」といわれても、自身も整理できていない感情なのだから本当の気持ちはわからないものです。だから、実家のように振り回されながら一緒に考えて共に探していくことで、なじみになりつながり、きずなが生まれてきます。

制度だけでは埋められない孤独、そのようなつながりは目には見えませんが、生まれる命を大切に産前産後母子支援ダイヤモンドルームの役割であると思っています。

ダイヤモンドルーム室長 廣瀬 みどり



重なり合う連携が実現するように

関係機関みんなで支えるなかで、本人が自立していく。



◎「すべての子どもが笑顔で暮らせる社会に」という同じ思いがあるからこその、重なる人がたくさん生まれています。ダイヤモンドの特徴ある3層構想連携を紹介します。



②関係機関と連携
アセスメントシートで関係機関に情報提供します。本人から直接得る情報は不可欠です。

③食の連携
子どもサポートおおさかのフードドライブ、平野区社会福祉協議会からのフードバンク、バルコープからの寄贈。

『本人の希望する未来へ』

本人の思いを中心に
コーディネート



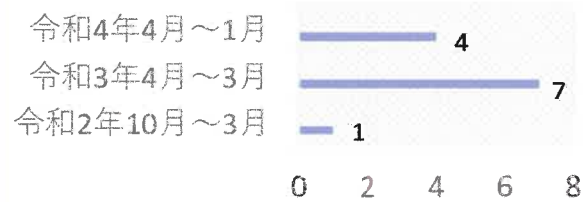


今までの直接支援の数27人

入所者数



アウトリーチ



- ・2年間で相談実件数は304件。そのうち入所は15名・アウトリーチは12名。
- ・電話・メール相談の中から、必要時、区役所や病院へ同行し、アウトリーチを実施。
- ・入居・アウトリーチ含め、27人を確実に支援につなげ、0日児死亡事例(未受診分娩・児の遺棄)を予防した。
- ・入居・アウトリーチでは大阪市と連携している。



広報活動

〈啓発・周知〉

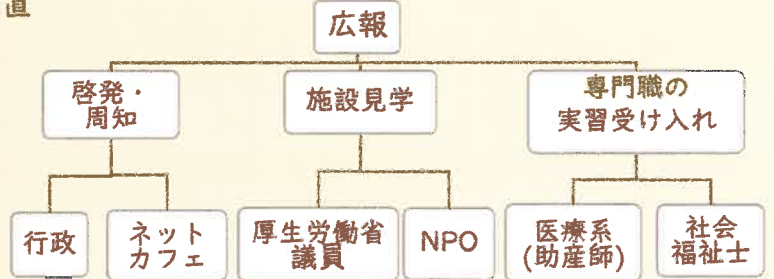
●ネットカフェへのパンフレット配布
⇒家がなくネットカフェを転々とする方にも直接知ってもらえる機会を設けています。

〈施設見学〉

●厚生労働省・NPOの見学受け入れ
⇒支援の実際を知ってもらいます。

〈専門〉

●医療系の学生さんの実習受け入れ
⇒医療職との繋がりを大切に、病院とも連携を強める取り組みです。



入居時に困ったこと ～出産準備金の使用用途について～

○ダイヤモンドルームに入居することで、住む場所が整い、生まれる直前に受給し始めるので、生活をしながら自費での準備金の立て替えとなり、厳しい状況にあります。

○金額は十分ありますが、ミルク・ベビーバス・抱っこ紐等の購入は、対象外であり、子育てを念頭においた柔軟な制度利用が望まれます。

